



夕刊
行發日九十二月十
（刊休日翌日祭臘日）

童ある両親と小供の話

干葉省三

お地蔵さま
これはどこにもある、こぼれたお地蔵さまは、そんな
くありふれたお話なのですか、と云ひ云ひ庭下駄を
東京のある場所の町路つづつかけて行つて、お地蔵
の奥に、一軒の小さな家さまの足もとに草をむしつ
てありました。そして、お地蔵さまを
ここに一組の若い夫婦が住んで
主人は、どこかの雑誌社
へつとめておりました。奥
さんは近くの小学校の先生を
してゐました。

病む妻

島田忠夫

○山崎三郎夫人の訃を新聞にて知りたる吾は
おもひ悲しむ
○世の中にさきほひ多き如かりし君の一世もす
べなかりしか
○わが研究に君がたまへるくさぐさの恵み思ひ
て吾泣かゆなり
○目をつむり静かなる妻を呼び起し曉霞先生の
たよりよかしむ
○この朝被褥下にたまる露白しわが病み妻が吐
ける息見ゆ

秋の句

渡邊山人

ちいさいいんちんしてお
みやの繪本枕に寝た
二日繪本を抱いて愉快
げに笑つてゐる
まるいおめ、の袴着の
寫真です
春である中食の膳の一

拈華微笑

の住宅地化理想
近頃の物價騰貴
相談所の利用増
加。薬價協定撤
廃。醫者様の方
で死物狂ひだ
ス。スポーツに紅葉
狩りに楽しい秋
晴れの明日曜

お蘭陀お蝶

渡邊春香

折柄本堂の方から蘭や
お蝶の黒髪などが町から
上へ来た給仕の湯女を相手
に酒を飲みながら巫山戯
らしてゐる船來聲が山雀
の啼きに聞えて来る。
岩瀬は更に言葉をついで
「就ては隠密といふも
何はしいが其許が阿蘭陀屋
受けては呉れまいか、い
ば」



お蘭陀お蝶
折柄本堂の方から蘭や
お蝶の黒髪などが町から
上へ来た給仕の湯女を相手
に酒を飲みながら巫山戯
らしてゐる船來聲が山雀
の啼きに聞えて来る。
岩瀬は更に言葉をついで
「就ては隠密といふも
何はしいが其許が阿蘭陀屋
受けては呉れまいか、い
ば」

敷に這入り込んで、八方に
心を配り、疑はしいと思ふ
事であつた場合に、内々拙
者まで、知らせて呉れ、ば
早速にその吟味處分をいた
す、さすれば自然とそれら
の曲事も絶えて申す
もので吾邦の益に相成ること
一通りではない、是れ取
りも直さず公儀に對しての
忠義ぢや、又其の外に大切
な役目があるそれは近頃
の國々から我日本に目を
つけ隙あらば黒船を以て
め寄せやうといふ野心満
先づ以て交易を迫り聞か
納期成會主催（愛國傳書
場）の集ひ）日比谷公會
より中繼（挨拶）傳書場

（話）日本傳書場協會々々△六〇〇A（子供の時間）
長男徳川義経 講演： 童話（青い鉛筆）林利徳
満洲事變に於ける傳書場△六三〇 趣味講演（高野
の活動）陸軍歩兵大尉池
田義夫（著）酒はみた△七〇〇A ニュース
氣象
（野球放送なき場合）
△七三〇A 獨唱と管絃樂
獨唱： 四家文字 漫談：
鳩ボツボ 徳川義経
△八〇〇 漫談（自力更生）
立花實
△八三〇B 座談會（新派
劇の思出話）花柳章太郎
△九三〇A 時報 ニュ
ス 氣象

丈夫デ 一重ガラス
安 イ 金銀高價買入
金光堂時計店
無効返金 二日間服効なき時は返金
淋薬界の最高權威
無効返金 二日間服効なき時は返金

別府皮膚薬 金三十銭
天下の名湯別府温泉のラヂウム含有の精製各種病
院及最高學府の處方精製大成せし皮膚病特效薬
であります。たむしん、いんじん、みづし、なま
す、しらくも等他皮膚病に卓効あり。
九州別府市湯乃岡 岩井 然 堂
平町三丁目北裏通り
（特約店募集） 代理店 渡邊 い と

産科 午前宅診
婦人科 午後往診
花柳病科 入院應需
井阪醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

嚴冬の征服者

福祿ストリープ
戸毎に福祿！四海は常春！！
電話三七番へ
カタログ御申越下さい早速持參致します
福祿ストリープ福島縣一手販賣
阿部石炭商店
平停車場前

大和田醫院

耳、鼻、咽喉科専門
氣管、食道科専門
平町南町（電話一〇七番）
（自炊の便あり）
大和田醫院
大和田郡司

川井内科診療所

専門 一般内科
内科、何れでも診療致す
呼吸器病、アレルギー、アトピー等
平町南町六五（電話一八一番）
女醫學士 川井 安重 子之

梅月食堂

度量衡、計量器
吸入用酸素
吸入器
關内藥局
電話四〇番

外務員募集

希望者來談あれ
平町中町一四
大正生命保險株式會社
磐城監督所
星 敏 夫
電話六〇三番

